

公益社団法人 日本青年会議所 2021年度 四国地区徳島ブロック協議会

会長 廣浦 雅俊

<p>現 状 分 析</p>	<p>コロナ禍において県内のJCは、事業や例会の開催が困難となっております。直近で入会したメンバーに対してJCへの理解を深めてもらうために、講師を呼ぶなどして活動内容をレクチャーすることで、JCへのモチベーションが上がり理解が深まると同時に、そこから新たな会員獲得への連鎖が生まれます。また、コロナ禍の混乱と並行し、地震、河川の氾濫、土砂災害など、様々な災害と向き合わなければなりません。徳島県では南海トラフ地震による死者の数は、約31,000人が想定されています。防災意識を持ち続けるために定期的な訓練を実施することで、この31,000という数字の減少につながります。経済面では、公益財団法人徳島経済研究所のアンケートによると、製造業と非製造業の180社で、自社のコロナに対する影響が「大きなマイナス」「マイナス」合わせ74.4%にもものぼり、非常に厳しい現状となっております。この深刻な状況を打破するために、人の賑わいを取り戻すイベントを催すことで、自粛モードに対する緩和への動きが醸成され、地域経済が活性化します。</p>
<p>連 携 概 要</p>	<p>■ LOMへの拡大支援事業の実施                  徳島ブロック協議会内のLOMでは、7LOM中2LOMにおいて、期首会員数が10名を切る現状であり、会員拡大は運動を続けていく上で喫緊の課題です。民間企業や各種団体からヒアリングをし、地域の現状を把握するとともに、会員数の減少が著しいLOMからもヒアリング調査をし、どういった支援が必要かを提案して頂き、地区のスケジュール3月に予定されている拡大手法の策定に、地域の現状とニーズに合った手法を反映し、各LOM実施していただきます。                  KPI：拡大手法の提案</p> <p>■ 関係諸団体との連携による防災・疾病ネットワークの構築事業の実施                  四国は、南海トラフ地震による甚大な被害が想定されています。地震の発生に備えた防災観点の共有、及び、災害時には円滑な情報共有と災害復旧を可能とするため、民間企業や社会福祉法人、行政機関とのネットワークを構築し、四国地区協議会と連携することで、四国4県を網羅する防災・疾病ネットワークへと昇華させます。                  KPI：対応訓練1回実施</p> <p>■ JCカップU-11少年少女サッカー予選大会事業の実施                  子供たちを支える地域コミュニティの強化を図るため、全国へとつながるスポーツ大会の舞台を用意することで、地域コミュニティの強化に留まらず、子供たちが友情を育みながら、フェアプレー精神、良き敗者・良き勝者たるグッドルーザーの精神を醸成させる教育の屋台骨が形成されます。                  KPI：四国地区大会へ1チーム選出</p>
<p>独自の事業概要</p>	<p>■ ブロックアカデミー事業の支援・推進事業の実施                  LOMメンバーをブロック協議会で育てる組織体制を作るために、ブロックアカデミー事業を行いメンバーの資質が向上することにより、LOMの発展とLOM間での緊密な連携が可能となる組織体制が構築されます。                  KPI：アカデミー2回以上実施</p> <p>■ 地域経済の再建を推進する事業の企画・実施                  「ウィズコロナ」と言われるコロナ禍における「新しい生活様式」の地域社会への定着、段階的な地域経済の活動レベルを引き上げるため、民間企業や個人事業主などが出店できるイベントを開催することで、停滞している経済の立て直しをはかると同時に、地域独自の可能性を見出すため、徳島の質的価値の高い資源をブランド化していくことにより、その魅力を広く共有していき、町の賑わい復活の第一歩とします。                  KPI：イベントの開催</p>
<p>パ ー ト ナ ー</p>	<p>社会福祉協議会（支援実施） 行政機関（効果発信） 民間企業（効果発信）                  スポーツ関係団体（支援実施）</p>